

せしめ早く社會の生活を覺えしめ又幼稚園に於ては早くより耶穌の精神を幼児に入るゝを以て國家宗教に背くと云ふは誤りたることである、幼稚園の發明は新しきを以て批難又辯護交々起つて居る、早くから幼稚園を賛成する人の中には政治家、宗教家、學者等種々の社會の人である之によりても幼稚園は偏頗なる作り物ではなくて教育上實際の必要あることは明かである故に追々幼稚園の賛成者を増加して至る所に其設があるされど只其名のみでフリーベル本來の主意に適應するものは云ふことができないさればフリーベルの主意に付て明にするのが必要である尤も日本ではフリーベルの主意にのみ依ることができないけれど、フリーベルの思想を理解することは必要である、されどフリーベルの幼稚園に付ての思想を詳しく述ぶる時もなく且實際從事する方々であるから今は其大要を述べておくだけである云々、

## 一般教育か特殊

### 教育か 和田 實

幼稚園の缺點とか幼稚園の攻撃とか云ふ聲が一時盛んであつた昔の事ならいざ知らず、今時幼稚園其物の價値を危む人があらうとは思はなかつたのは是は又何とした間違ひにや幼稚園の効果を危む人が今の教育界にあらうとは思はなかつた。然も夫れが幼稚園界にもあらうとは思はなかつた。然も夫れが幼稚園界にもあらうとは思はなかつた。斯る浮はつた考を持つた所の保姆が此幼稚園界にある以上は逆も我幼児教育は發達することが出来ない。そこで我輩は思ふ存分之を攻撃して見たいと考へたので秃筆を呵して書き出しては見たが生來の筆不省、鋒先はいつかな動かない。

余事は措いて本題に入りらう先づ然る所に一人の最もらしき保姆の先生ありきと思召せ、此人或時

人に語りて云ふ、

幼稚園は上流の人の子弟か若しくは細民の子弟の爲めに必要なので中流の子弟の爲めには然したる必要がない。故に自分は幼稚園の保母はして居るが自分の子供は幼稚園に入れない積りである。

と斯う云ふて居つたをだが是は又何とした考へ違ひだらうか、僕は斯かる考を持つた保母が他にもありはしまいかと思ふて心配に堪えないのである。思ふに

此人の勤めて居る幼稚園と云ふのは普通の幼稚園ではなくて一部細民の爲めに建てた特殊の幼児預り所に奉職して居る人か然もなくば上流の放逸傲慢なる家庭に人と爲つたやんちゃな子供を預る一種の感化院の幼稚園に奉職して居る人であらうそして幼稚園と云ふものは己れの奉職して居る様な所を云ので普通一般の人の子弟の入る所でないと思ふて居るのであらう。と思ふ、若し果して然

らならば井蛙の見で寧ろ憐む可き次第ではあるが若し又然らずして身は立派な公立の幼稚園でも一般に世人の子弟を集めて居る所の幼稚園に奉職して居る人であるならば聞き棄てには出来ぬ事之が管理者たるものは宜しく追求する所がわつて然る可きだらうと思ふと何故と云ふに斯る保母は幼稚園の本旨とか幼児教育の本領とか云ふものを辨へて居らぬに相違ないからである全体幼稚園の仕事は外見頗るやさしい仕事であつて内實は非常に誤り易い仕事であるから造次顛沛も徒らに形式に拘泥せず其本領に戻らない様に心掛けないと動もすると種々な誤謬に陥るものである。故に幼稚園に職を採るものは常に幼稚園に關する原理原則の研究を怠つてはならぬ。然るに己れの採れる幼稚園保母の職務が教育上如何なる地位にあるかを知らず徒らに先人の形式に倣ふばかりで自己の見識も何も立たないと云ふことでは誠に頼み少ない教育者と云はねばならぬ。

全体又幼稚園と云ふものは一般の社界に果して不  
 必要のものであらうか。文明は日に月に進歩して  
 教育は日一日と其必要の度を強めて行くのが今日  
 社界の趨勢である、此時に當つて世人は其子女を  
 満六才に達して小學校に入學し得る迄慢然放任し  
 て置くのか得策であらうか抑も又之を成る可く早  
 く専門の教育者に托するのが得策であるか、別段  
 議論する迄もなく成る可く早く之を専門の教育家  
 の許に送るのが適當であるに違ひない。既に成る  
 可く早く教育家に依頼す可しとせば各家庭では其  
 子女が晩くも四才に達した時は之を幼稚園に送る  
 可きである。實際幼稚園に通ふ可き年頃になつた  
 子供の慢然家庭で放逸に遊び暮して居ると云ふの  
 は頗る弊害の多いものである殊に身体的發達の良  
 好なる子供程種々なる悪癖悪習慣に陥るものであ  
 る。そして又斯る子供を其家庭に持つて居る父兄  
 は毎日子供の爲めに夫妻親子の間多少の異見や衝  
 突に遭遇しないことはなく、子供の爲めに却つて

家庭の煩はしさを感ずる様になるものである。且  
 又今日の進歩したる教育思想から見れば四才以上  
 に達したる子女の教育は亦も家庭の仕事の能手間  
 等に一般の母親が注意する位では到底間に合はな  
 い。其監督は不行届であらうし指導は不充分にな  
 るに極つて居る。そこへ持つて來て家庭は幼児が  
 己と同等の發達ある友達を得ることが出来ない爲  
 めに幼児自然の無邪氣な遊をするのに頗る都合が  
 悪い。従つて其社交的生活も家族以外に擴張する  
 ことが出来ない。  
 以上數多の理由に因つて幼稚園が今日小學校以前  
 に於ける普通教育上の一公共的機關として必要な  
 ことは明かな事實であらうと思ふ。従つて世人は  
 専門の教育を経たる指導者看護者なくして四才以  
 上の子女を家庭の附近徘徊せしむる事を以て教育  
 上恥づ可き者と思ふ様にならねばならないのであ  
 る身幼稚園に奉職して居る者は義理にも此方針で  
 世人にも對し父兄にも對さなければならず。又世

人を勧誘して一人でも幼稚園の園児を殖し一つでも幼稚園を増させて、フレーベルの遺志を普及し幼稚園事業を普及せしめて彼道路の上に學齡前の子供の悪戯に耽けつて居る様なものを根絶する覺悟でなければならぬのに事實は是に反して身自ら幼稚園の價値を傷ける様な言論をして居るとは如何にも情けない話である、  
 或は又此人は自分の奉職して居る幼稚園に自分の子供を入れるよりは自分の家庭で行らせる方が完全な保育をすることが出来ると考へたのかも知れぬ。若し然らであつたらば同時に此保姆の出で居る幼稚園は極めて不完全な保育をして居る處であると云ふことが出来る。果して然りとせば此保姆は人の子を賊ふものである。自ら採れる職務が不完全に行はれて居るならば何故に管理者に請求して之を改善する方法を講じないか。今日の學理と實驗とは確かに幼児教育を成功せしめ得ることは疑ひない然るに之を是ししないで置いて袖手してあ

きらめて居るは如何にも暢氣な事である。若し又今日の學理に承服する能はず幼稚園教育の實際に嫌たらずとせば何故に進んで是を學者に訂さないか本誌の如きは悦んで斯る人の發表を掲載して天下識者の議論を誘起し様と努めて居るのであるが本誌不幸にして未だ斯る熱心な保姆の研究場にされないのは遺憾千萬である。是に至つて思ひ起すことがある。嘗て東京府教育會雜誌に誰であつたか名前を記憶しないが次の様な意見を云ふた人があつた。

保育事業は之を他の教育事業に比べると頗る進歩が遅い、是は何故であるかと云ふと、是は女に任かしてあるからだ兎角日本の女は人に云はれた事をする丈は可なりするが發動的に積極的研究などすることは至つて不得手である。  
 と云ふ意味の論文があつた様に思ふ。今にして考へると思ひ當る所がある様である。  
 夫れに又女と云ふもの頗る自己中心で困る自分の

都合さへ能くば職務の爲とか事業の爲めとか云ふとは餘り考へないらしい。否或時は自分の都合自家の都合、夫の都合子供の都合の爲には職務をば可なり犠牲に供するに頗る勇氣がある様である従つて積極的に自分や家庭の或物を犠牲としても或研究をし様とか公共の爲めに計らうとか云ふことは先づ出来ないのが多い、従つていゝ加減に其日を送り僅かに責を塞いで置くと云ふことは女子の教師にはあり勝の様だ、攻撃が横道に入つて思はぬ人身攻撃になりそをだが全体幼稚園の保育法と云ふものは今日に於て研究の餘地が中々多い。是に従事する人は自ら大に研究的の態度を以て掛らなければならぬ然るには多大の無駄骨を折る必要があるので誰れも乗つ切つてしないといふのが現時の状態らしい。

要するに幼稚園は小學校以前に於ける普通教育機關として一般に切要のものであることは進歩したる文明國の一資格とも云ふ可きもので決して上流

一四

社界又は下流細民の子弟にのみ限られた一部の人の特殊教育機關ではないのである。

併し其所謂保育法なるもの即ち幼稚園教育法は今日に於て果して誤なきや否やと云ふことは別問題である。吾人も今日の保育法を以て完全なものとは思はない。否大に改良する必要があることを認めては居るが併し幼稚園を以て普通一般の家庭の爲めに必要とすることは決して變りがない。世の幼稚園に従事せらるゝ保母の諸君及幼兒教育に熱心なる父兄諸君は徒らに奇矯な言論に惑はされないうで信用ある教育家に其幼兒を托されんことを希望します。

